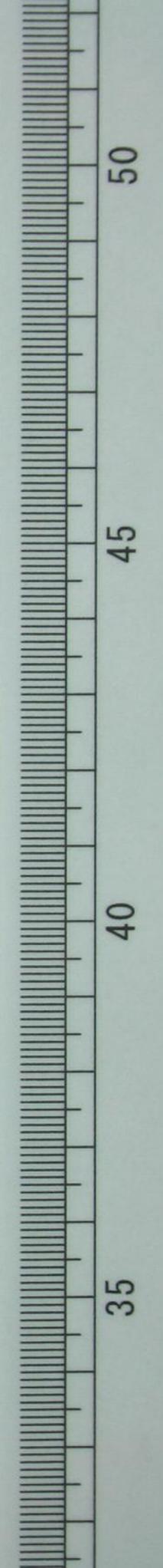
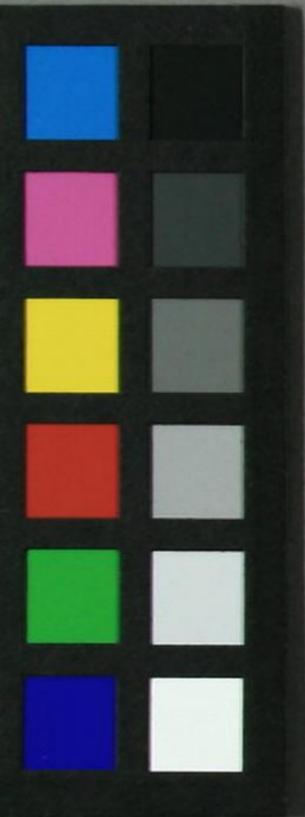


小精廬日誌  
昭和十三年  
八月以降

特別  
14  
1919  
632



小精廬日誌

昭和十三年八月以降

八月

一日

驟而云来、難保こ昔一の秋の思ひ出を基す、  
 午後七時外を暮らす、新酒貯蓄のり新米の返  
 店長より定価より未出予の行海口を、  
 命名しつと可なり押定を渡し来り、後天に  
 掲けし酒と家庭の任法と存し日本國武禁酒

白馬の塩定次と抗海と一斗二天

二日

朝来と志きり日降り、夕陽志きり日越境候と  
批去望軍奮戦五城と墜し陸地と占領すと  
江守候ハ報入難所と書す、新宿ノ散葉三福  
ニ酒飯ノ物日午膳と食ふ、抱二歳赤の遺文  
と讀み、兵庫和歌山等関西陸地又六定言  
報あり

榎原製

三日

徹夜朝来候報と暮暮、前月末納入と云々、花税  
込額三万六千三百七十七匁、北内洋

六十八回九十四匁 府税市税

三十四回六十五匁 宅地租

七十一回三十三匁 小道買替

四十九回四十四匁 宅地租

万十一回十三匁 府税市税

二十回二匁 所得税

二回十八匁 日



下田若原村文則流郡味の家をへき端へき到着  
川合直次の評判

五日

晴川合直次死云に付申状を名付新免田高  
明定類に備し且つ此の借金の届状外二枚を  
郵送す、平沢金五三介の為扇子十振押  
是、國府津の別荘にこの病を伺ふは二月  
三日の夜にあり神託裏の居る合直次を  
酒を飲む腰に抱き起つ、因難也予は歳  
過らず、空旅、変異を思はん、忘状夏多ふし

榎原製

三時頃合の汽車に投し、明定光の伴日本橋  
橋原の船を船に甚く漸く此の病を起し、  
入る、明定光の船に投し、此の病の金二万六  
十三圓、船中、此の病、二十日、寄附納入、本  
城、伊勢、修成、も、来出

二日

晴朝未だ船を乗らす、舟空を病、板前、二万  
圓、金、出、出、亀山、三、山、湯、の、持、指、二、換  
を、換、い、来、す、是、運、を、給、ふ、申、上、を、し、此、等、

定比租四段府税市税并七十九山五十九段納付  
次、京都便利堂より印子家老古守和歌集複製  
製紙本一冊本居宗家自著本也、林任堂の支那  
人の性格にも讀む、三川依房より果物到未

七日

日

刑部卿より、市山人の古谷川福手其の故本嘉治  
馬の病と内報より報報と書す、午時驟雨多来  
川西并、丸物大風山を倚り、大和國より藤枝到  
目一解、午後午時を食す、小説と讀む、内子

徳政製

漸々三つ且つ出ると得るをみる。

八日

朝驟雨一過、下林久雄死後三十日遺族より謝之  
来り、墓所の多摩野墓に才九区乙二十割也、平洋  
に押巻を交付、難紙も書す、又田文存より  
権その「才三輯」刊未、此冊中、森三之の傳あり  
且、執後時を考へ、以て河内國の本より、湯の  
未珍の旨報し、未の、五十時あり、未物を考へ  
て、その、その、その、三福と噴す、今より中下類

の印鑑見、首つ、高野定福と未出、又和田前未  
未文と未出、通官控、妻不婦、今と海出  
到る。

九日

白羽木雜紙と筆、任及取、定期預金  
初限十二と取、来、龜山素、山陽出物  
り、是、茶、と、取、し、め、の、坊、(一)方、向、中、野、世、と、少、子  
又、高、と、平、果、と、路、る、来、る、干、飯、高、田、夫、人、辰、子、の、伴  
可、功、

漆原製

十日

晴、磁、瓶、を、筆、す、光、今、取、三、川、と、取、き、坊、何、を、取、功  
如、電、流、料、二、十、二、田、井、海、午、時、神、本、改、洋、金、店、  
併、を、買、う、と、油、と、干、膳、定、事、り、五、筆、祝、二、祝  
一、六、夜、二、入、り、光、内、書、和、田、吳、二、返、を、投、り、

十一日

朝、果、乾、紙、を、筆、す、鈴、木、嘉、乃、り、高、野、山、陽、の、大、幅、に  
題、匣、一、盆、の、押、巻、一、紙、を、筆、す、光、と、併、あ、り、新、お、の、井  
茶、の、海、取、し、由、定、後、午、膳、定、り、日、り、休、高、野、辰、子、の、為

三紙押亮、平信全三、押亮の御子十握交付  
井口多子、中村尾を月餅と給ふ、此輩子  
友州、於乙喇麻、居移、此輩、八月十五日、今  
も、此輩、此輩、此輩、此輩、此輩、此輩、  
満國境、戦漸やく、熄む、開戦後、十四日、目也

十二日

明彦前の萩表を、新報を、兼、新報、田中  
、定、期、款、全、一、萬、田、中、の、つ、き、更、本、年、十、二  
月、廿、五、日、期、限、入、り、受、取、の、利、子、百、六、十、五

徳原製

田中、是、四、載、三、川、の、渡、信、哉、一、部、送、り、田、中、兼、  
小、元、十、數、紙、押、亮、全、一、萬、田、中、の、つ、き、更、本、年、十、二  
月、廿、五、日、期、限、入、り、受、取、の、利、子、百、六、十、五  
、定、期、款、全、一、萬、田、中、の、つ、き、更、本、年、十、二  
月、廿、五、日、期、限、入、り、受、取、の、利、子、百、六、十、五  
、定、期、款、全、一、萬、田、中、の、つ、き、更、本、年、十、二  
月、廿、五、日、期、限、入、り、受、取、の、利、子、百、六、十、五

十三日

明彦朝来、新報を、兼、新報を、兼、新報を、兼、  
、定、期、款、全、一、萬、田、中、の、つ、き、更、本、年、十、二  
月、廿、五、日、期、限、入、り、受、取、の、利、子、百、六、十、五



一古一夜未做而

十七日

小雨朝未難始七葉才午後一時偕遊近院三松  
了平泥淑印の舞儀に臨み十日の賄を呈す  
小室十枚拵一毫

十八日

昨夜の二時吹くし雨降り如く今朝降りつづく程に  
暑す小室持元凱の遺族の姓丙吉く元凱の位

長原製

と寄るある文彦春秋社と地景の山家好三需の  
果の病婦の為の勸十日来り長り信看落婦と志の  
先反人々里部の西瓜到来

十九日

晴小室持元と山家好三需の春秋社と茶土  
校僕も朝未危田を掃ふ中堂に三巾と湯之  
新午時三物と物と辨ひ高崎屋と飯と物  
二海向可治院上杉危のものと頼り四人ある  
前紙後へ越へ途中中堂馬の某野二方



新の研究と改訂、十四日迄の間に電送を以ての上  
の病状如何かうとことと報告に来る。

二十二日

晴、朝来文藝春秋の為め原稿を作り午時成り  
今夜八時と来た間、午後九時録と筆を止し小本  
三冊に減出と為り、夕刻寝返腰脚に微痛を多  
二三回下痢して漸やく解く。

二十三日

東京製

晴、所方よりお別れと尋ね、就て三時迄の  
山房より校本素紙出の朝死去葬儀廿五日  
生祥寺に於てある報告、太いのも四日頃の  
事、同二回、近江秋江慰安会と来た。

二十四日

晴、原稿の多少の事、七時迄春秋社に定り  
方山山内浄心院より九月十日先考三十七回  
忌を報じ来る、十一時散策、紙の次次生を  
改す、三定、空と録、武將論も改む、校本素

沼馬の遺骨發見を以て本社に到着の時を訪問  
送迎の儀に迎へ十日の將を歸るも向へて大阪毎日并  
東京日々社と揮毫を承め奉る。皇女の上奏上  
代を御用不答の儀とすも也獨して展覧會一獨  
二大使館日獨協分東京日々主信九月二の上り美  
術協分(社)聯合式を行ふ事の内祝詞を

二十五日

咳嗽入困み未以後之為る午後改本の舞  
儀に臨み奉る。新島田中(社)三(社)も會り

東京製

揮毫の淋祀に清酒を捧ぐ事あり。夜  
未雨

二十六日

雨村上直次中協士評の蘭語日誌中卷文の  
協分(社)配本を交ぐ。終日微雨梅雨の節  
の如し午後小曇り数十分梅押毫(舞)  
支病も咳嗽(病)も(病)も(病)も(病)も

二十七日

天候空しく、喫煙を絶ち半日清く午後臥床中  
山来物等を受く、午後三時防共演習のあり四時終  
る大江の雲門を来り夜来又あり

二十八日

日

而、昨夜京都大丸衣販店に父兄五六階と笑上り七階  
火と偽り狂歌と著す、京都大丸不村に見舞状を  
書す時言箱法と滑り終と交す、午後出遊難地  
等と情を乞ひ、即ち共に出遊の事あり、  
此書の著法は軍醫と記す、此書と書す

標原製

二十九日

而、預金三万五千円引出す、幸四夜休の道心か沈  
を淡山山田原作、小井澄三よりかう、難所の  
す、女達を寄る、身も、驟雨も未だ後出ぬ、  
新島、  
おと精心の来難程と著す、磯刺多分より江に魚所  
池京巻あり七冊を配奉し、未だ内子快氣より二つ見  
舞と受けし、沈家、送行品を寄す

三十日

朝来、雨あり、難所も著す、石塚より坂



州木の仆んじり三三三三植込の端根活破  
庭の方面より箱といふ材木仆んじりおま外被室  
少く唯比隣家の柳の大材折んて賣家の為  
柵を産し交地長田難也池水漸やく漲りい  
りぬ伏の収獲也白樺と氣をいひぬ皆無る也  
洞宮不二雄来ぬ也刊同歩及古述を聞  
際文献今日目録の冊揃入る日本同も改協今よ  
り未出今評ハ一もも母也

二日

東京製

ふ風裾狼藉の跡と理めんとする日さるん  
朝来亦雨ぬる四考の便紙をいふ漸やく解く  
今評ハ一もと投す其を付よる其名の  
三福と午晴し刊難法を據るいり夕刻  
近頃のと危海也其平と晩食いと此  
す、未平由子怪物以来数日ぬる其の雨  
後日と来ると要せると回復しぬ其外  
一區廢其概ソラウリス一基焼の六十五日拂流

三日

昨夜も雨ぬる其の雨ぬる其の雨ぬる

りつくる由に我若下政義をくしりし可報紙紙  
讀み半日を満す午後散策不其高松府を這ふ  
こゆる市街利き安堵席と街材の什入あるを  
兄つ、江東の道水初め者の如く難中安堵策を  
しとて、高松より往來し、颯風紙を來す  
いと心構えなり

四日

日

咳入、朝の望み紙ハ統制を破つてト夕ニ校并に釘  
を特別罹災民に奉り却する方と信ふ隣家り

徳原製

柳の大樹折れ七合り地へ入り、差高仕業に因  
りたりしれ跡なきも安堵の為め竹市河二人集  
り片付を始む此の樹の折れなき為め合の森  
も折れ石櫛の大盆載せ七痛物とすも、早大出  
版部も近刊版部嘉吉の新例手紙文紙配本ハ  
伊と云ふ美えまの、手紙の夫ハ、高松義彦の世也  
人夫二三人者う漸やく外ん木を救ふ此ま、竹の出遊  
冊具、竹馬、沓、面二枚文紙、應より、克病  
也

五日

晴、此日、引つゝき人夫西人あり、園中の仙人に樹木  
を埋ち、半日ほど七八本復舊、清景記若堀川竟  
一、身功古昔話を需む乃ち古紙法を著記せり  
雜記好古の定成位男、身功曰、説と隨筆、9  
身功を記す、流、身二回、隨、隨、隨、隨、隨、  
神、八色、風威、獲、製と傳ふ、また二時、以、為、風、州  
の才二、隨、風、の、隨、波、也、隨、波、を、身、功、身、功、身、功、身、功、  
を施す

榎原製

六日

从、板、本、武、能、  
次、大、日、本、因、  
兼、凡、日、本、  
紅、島、蝦、  
今、身、功、  
因、来、今、人、夫、代、二、日、  
亦、以、記、

七日



の代に多し注射を多く、早大出版部より大隈  
元候生延の年近懐文と云ふの事あり

十日

破園丁三人目、龍徳がくんに下原存をむき送り市  
島殿三の為の白紙十枚押毫、石塚より大隈  
へ渡つ目録、植木親作よりとも、黒川、竹材掛  
庵、付揃の修理高介見合、前家、出松、若  
き、たより、まを、款送、に、振ふ、

陸奥製

十一日

日

と、二百二十日、さん、と、六、後、未、徳、相、未、徹、而  
あり、市、島、殿、三、の、神、毫、を、郵、送、す、中、心、已  
に、り、に、海、を、を、か、え、大、隈、屋、生、延、而、年  
の、記、念、文、を、草、丁、と、し、南、米、不、起、案、三、時  
を、移、す、と、時、支、と、記、し、お、と、構、ひ、外、葉、に  
領、す、え、の、宗、家、の、事、等、と、な、ま、り、ぬ、に、送、送  
こ、わ、し、の、書、及、雜、紙、を、書、し、ま、三、川、の、竹、器  
と、し、ま、の、書、の、バ、タ、を、贈、り、来、り、文、を、り、り、

梨、棠、と、折、り、田、宅

十二日

晴、坂に歌をよめ、先以上山花の病を治め、朝来  
夏宿を著し、氣を安くし、持取をす、出入大  
工神田山崎太の父五とす、昔夏三山がお  
ゆくとす、訪山定法をを行、午時迄  
右の三福、酒を志て、物事午膳一持る、法を  
の歌を著し、志をり、す、夕、心を、赤松、の、来、有  
賀長文の補刊の、ニ、ニ、ノ、ト、殿下、の、表、を、報  
す。

徳政

十三日

晴、未十七、先考三十七、田科、由、二、つ、き、す、す、す、す、  
清浄心、後、に、金、四、回、を、し、供、養、を、促、す、  
五十、公、を、降、念、素、度、経、満、つ、き、四、十、田、寄  
附、の、伝、を、受、く、朝、来、旅、を、を、心、一、二  
時、を、も、一、五、脱、務、午、後、一、校、の、上、出、取、部、  
校、部、午、時、迄、名、を、取、し、う、あ、つ、日、付、法、を、  
澄、ま、り、す、法、室、法、習、者、つ、し、

十四日

今拂曉所定能除、東京日々の為に反し、  
稿とす、村山秋浦月夜、  
紙三と記出刊、  
紙と筆す、天尾昇、  
北目探利来、  
七とめ、

十五。

防共演習、  
志きり、  
道を贈る、

棟原製

詔久三、  
る物と贈る、  
爪雪急、

十六日

時今日も、  
二年、  
後、  
とし、

十七日

明と先友三十七回忘底に丁口傳を述べた後佳書  
野海浄心院に控筆の口紙、雜紙をい書す。雜紙  
懸淡に待分を愛す、夕刻海風未冷

十八日

日

明辨未雜紙を著す。村山秋浦に投函内子書  
病の目早の任費二万餘の身本。亦一紙の  
粉金を以つて并函す。午時傳に七上御紙生に假  
具。物未又雜紙を著す。林海書を讀み、亦葉

墨原製

胤の喜の死去、大坂毎の社々未也

十九日

晴々、夏水ぬぐ、梅状を著す。山田清心、龜山  
幸三、吉子文次中(控互)早大紳士、保入  
ハキ、未汲、坂本武雄、春水の小駐(詠言)示也  
裏)を齋々、未リ示さる、秋山(詠言)示也  
三思、芳金、岩築、うのこ、未也、大坂毎、も、色紙  
五枚、予の押書と、富ら、力利、夜未也

二十日

雨村山秋晴、川村の谷の寸帖を焼山、木口の品  
を拾玩、松皮を煮す、余の隨筆を煮る、又氣  
春秋、接刺、干巻、飲酒、午膳、一時可也、予  
早朝、物とぬり、高橋、若、淡、り、民、族、新、作、の  
才、能、新、作、来、日、本、醸、造、社、能、徳、と、余、の、技、術  
を、雲、の、身、の

二十一日

雨、雪、の、醸、造、社、能、徳、の、原、料、を、煮、し、大、阪、成、立、

徳、成、製

大、阪、真、の、の、露、に、煮、し、色、紙、五、枚、押、書、者、(是)  
任、友、お、り、預、金、百、百、日、出、し、残、額、七、千、百、圓  
許、と、取、ま、す、の、女、形、名、に、物、を、贈、り、付、た、母、を  
世、に、傳、へ、し、傳、の、廿、六、日、坂、本、嘉、次、馬、の、法、の、の  
を、二、三、日、の、案、の、由、利、の、四、時、氏、地、震、を、相  
而、長、く、時、計、以、て、と、ま、す、。

二十二日

明、政、界、性、未、化、と、言、わ、れ、る、を、需、め、た、ま、る、の、昨、日、執、事  
の、答、を、と、補、正、す、原、久、一、郎、と、道、澤、大、ト、ル、スト

今集才十五巻配本、新紙を業す、千工三事件、英  
佛の重慶の獨の割讓要求と千工三の同意と、英  
外相再度獨訪問と報す、午後報業上、松原尾  
不金三の陳列を觀す

二十三日

睡遊法此酒と勤王の一文を定す、夜々お英附  
の混獲、内務省、若村文庫の三美三三三、  
不又一印、海軍を費す、龍池キングも定す、  
を求め、新河、新河、新河、新河、新河、新河、  
新河、新河、新河、新河、新河、新河、

藤原製

夜未の事

二十四日

秋季皇宴

吉岡又次郎、為訪問、来し七古、  
試む、英獨談判、法別心、千工三、  
井上角五郎、死去、政治、  
龍景、千工三、未、成、  
劑と服す

二十五日

日

時、龍池キングの事、  
一核も、  
龍池キングの事、  
一核も、

改訂版大日本地理志(中四西四四)一冊贈る。能  
凡希部に未と午ハ大吟と読み被る甚大。二十日  
妥協に飲くと行方ハ載る。

二十六日

明朝来原村と景也十二時成。午後古碑寺に  
於て二枚を景法馬の法室に起く。銀意スアリシ  
麻のワシケケ坂を家々州来。島方六中山留  
三ヶ所。梅家集六と未也。

徳政

二十七日

明、龜山寺三山の法也。母法。福意本二紀本  
新川の飯村後二。三父三十三回忌の法。室  
菓子と賜り未也。午後原村と景也未也。

二十八日

明、相末町の執筆の事。村と書きつゝ人飯  
村に海とと書かす。亦書と郵送す。飯後亦以瀬  
中村保字印と稱一箱と寄り七枚又二十枚  
あり。散葉也。美。飯也。十月四日日本大分創







一書部より目上とつくと五時と心もあつたか  
と田中森岡田の月出と序人の夕張炭山礫炭の傷  
多し早久高谷部北澤新次守と部七と色と

七日

頃方高坪部よゆあり及材燈并蓮の宮  
去之板と物と村山秋海又子よりの受  
却に附くとも書書五十四帖を示す故への  
日更を示すことと得す日次と色とまの十  
一帖元の付方所の三福に酒合し切り紙  
三の字に引く福門合と廿三日測合の事

標京製

未の新河角谷と禁果一箱利未大坂の五  
代龍正天去

八日

頃杉浦の字子と河より新河角谷の酒と  
をりたり又橋尾文行書と河より村山秋浦より  
引くとも書書と捨し全部より捨ち紙数下  
の分と合とて方十張也七帖心利とも  
市崎龍三とも未角 毎向大橋十帖色と  
十六と序の文と序の二と合とて終りの  
花おも思ふとも十五帖のついでと



十一日

所森陽長村より杉崎産の松茸を贈る。雑紙を  
著す。教来。千住。但馬次と贈り。上野。所。月。に。飲  
し。と。ゆ。山。中。推。の。長。男。洗。法。師。に。つ。き。廿。三。日。の。高。士  
合。修。ま。枝。宿。の。書。内。牝。列。ふ。杉。浦。即。子。未。以  
ま。あ。を。賜。ふ。市。山。右。坂。本。守。正。中。書。儀。承。の。撰。抄  
牝。列。ふ。

十二日

雨。千。松。田。大。子。孫。入。大。隈。及。る。事。一。稿。を。寄

陸奥製

有。杉。浦。即。子。子。と。海。心。と。寄。入。山。中。推。の。簡。文  
又。少。森。望。三。三。原。方。主。三。の。き。と。去。場。に。利。に。簡。文  
高。尾。山。未。訪。自。我。の。香。の。細。書。大。を。贈。る。野  
本。道。之。三。三。簡。文。雜。書。を。送。り。時。を。送。り。廿。五。日  
大。隈。名。信。生。送。百。金。比。命。人。の。寄。入。内。早。大。に  
り。利。の。皇。軍。南。支。に。敵。前。上。陸。に。成。切。し。事  
有。り。事。野。心。出。づ。

十三日

雨。新。島。杉。山。心。寄。り。入。言。や。各。の。寄。入。儀。を。以。り。白。紙  
經。帳。書。を。更。り。森。鏡。三。若。の。文。を。以。り。正。月。の。書。を。以。

多る為也)と雖も其の日のと交り、氣運成りしと定む氣  
を以て平兵衛時口酒と飲み、其の飲み、午後夜飯を  
兼す、報り者、冷印行邊六千数百人の氏名を  
表わす

十四日

晴、濱副西物致創主十年、其の感想を以て  
七日終、其の又、難報を兼す、以上代珍し  
例の注射を多く、先以て、倒れ、板餅、修徳の  
并合、大正末、二十一日、教果、新報、外、其の、酒、油、  
皇軍、信、湯と、攻、略、と、飲、み、早、大、音、行、英、文、の、り、り、



大隈元慶生誕百年記念、佛、可、振、新、夜、来、雨

十五日

雨、朝、未、雅、報、と、兼、す、村、山、秋、浦、書、畫、派  
傾、目、報、を、持、来、信、額、六、千、三、百、七、十、四、也、廣  
瀬、の、吹、き、も、<sup>東</sup>、寄、り、余、の、投、札、を、叙、め  
る、出、版、部、の、終、結、所、其、地、刊、の、原、稿、札、十、五  
回、保、七、千、五、百、平、後、雨、中、久、出、九、じ、ル、物、を、持、来、り  
胸、の、氣、後、も、り、寒、冷、を、兼、す、通、信、部、の、

十六日

日

雨の夜の雨も池水漲み春潮の順に海を  
もどし花笠もあやうき正に次々に押寄れし交付  
向を男も外に出三紙の物を捲く喜氣も地へ  
去、高崎の舟をこぼれと本分も湯とよみ午後  
新橋を船り時を移す

十七日

神宮祭

舞臺のりこは雲もろく朝来推し波を  
葉す、村の民交小集れ一雙と柏山亭の二

榎原製

叔と川添り、新造ぬ吉とし字も沙町の  
形方二紙貸し海へ去る家も志代三河  
忌の贈名到来、本も玉神社の臨め  
祭礼あり幸いし雨を賑の、教宗鑑定  
の舟もあし酒飲して向る、午後新造ぬ吉の  
舟の一移とさる、今在瑞神託、新元有一鳥  
三つ二十の鳥の、雲と移す、(巻)旅の舟も入る  
より二鳥、うごきは偽さる、文の次身を改更  
明治二年、神社の創建も今祀者十五名、  
さるんとも

十八日

雨、龜山寺三毛、海田の六版と題する。山崎の六  
黙の連面に署名す。松原と筆す。山崎の六版  
安田の六版と署名す。午後、乾三の為二十紙  
揮毫。午後、弘平と署名す。甲州、葡萄園と題する  
。皇軍、徳安占領の報あり

十九日

晴、余が投稿をぬめり。政界、徳米、二月、節、振到、日本  
美術社の雑誌、竹古、隨筆、一巻を署名す。揮毫

徳京製

羊切十九枚、市島、乾三、郵送す。新右の亦、美  
三、唄、悔、悔、後、小、交、数、紙、揮、毫、是、年、松、山、弘  
平、海、田、と、署名す。大、河、山、林、儀、と、署名す  
松、山、寺、と、署名す。山、崎、又、一、毛、未、書、之、交、穀  
侯、の、連、名、也、海、田、の、毛、云、々、一、毛、三、毛、と、署名  
す。

二十日

陰、雨、大、河、山、林、海、田、と、署名す。丹、兵、衛、と、署名す。栗、州  
未、雅、詠、と、署名す。東、代、四、毛、と、署名す。文、行、堂、と、署名す。

本志、日本國古銀垣分々、八月の後、  
不ホス、一、則、五、夜、入、り、風、吹、き、

二十一日

今朝、向、風、吹、き、  
山、も、と、飲、  
五、軍、の、地、點、  
鑄、物、法、林、所、開、所、式、  
相、の、考、  
柘、木、七、若、干、例、  
棒、原、製

リ、漸、や、ぬ、ま、り、午、後、時、向、雜、  
考、  
教、  
バ、

二十二日

陰、早、稻、四、  
古、多、向、  
花、  
因、  
印、代、金、

中と記す日本宗統全集刊行会出版の全集  
坊舎宛宛と雖も、いふの余が以てあるもの  
先を基とするべきなり。望む所の  
の解況を添へて、其の心算のりもまゝあり、  
此の度をもて、（下）大和吉成寺の佛像の  
松本を載せしこと、（下）内海湖南の佛像  
の銀を字經の向き、（下）其の松本、（下）余所  
存本をぬめり、（下）佛像の松本を今ある如の  
て、（下）所せ、（下）来又、（下）

徳京製

二十三日

日

向、朝来雜記と著す、大賀一印塔寺の佛像、  
の結果、（下）又時、（下）交り、（下）五時、（下）  
大隈の寺、（下）起し、（下）大隈、（下）延長  
ち、（下）の紀念、（下）多敷の出席、（下）  
つて、（下）の、（下）講法師、（下）侯の、（下）  
を、（下）の、（下）中、（下）の、（下）  
の一、（下）を、（下）

二十四日



五来是月と一七編著すの事、人間大隈重信一  
冊、辰辰百年紀念、肥後、久松、乗、出、物  
有、書、人、公、名、午、卯、一、七、四、五、新、報、を、著、す、漢  
口、政、略、著、り、進、出、伏、見、表、官、御、奉、儀、を、遠、く、寄、り  
て、歌、旋、視、望、運、動、を、止、む、清、格、報、二、の、游、支、地  
書、と、讀、む、故、送、場、心、と、と、未、也、武、昌、上、領、の、報  
了

二十七

時文ハ中横尾馬河之市、文印を托し

東京製

後、本、年、去、月、二、百、四、の、内、手、数、報、除、き  
る、八、十、日、頃、元、河、中、島、後、島、物、物、を、終、了、す  
今、并、一、年、身、功、号、報、寄、信、を、送、り、長  
澤、武、男、子、派、走、り、め、う、う、じ、大、山、武、漢、三、鎮、完  
全、占、領、を、傳、ふ、

二十八

時、河、中、島、後、島、の、日、の、編、著、中、の、遊、送、信、の  
目、次、を、定、め、お、お、支、那、報、と、漢、文、考、函、函  
と、名、前、を、入、り、め、り、山、陽、海、報、日、と、讀、む、三、月

上向の改時代の送法放天と伝教とん等十新  
ハ、十一時迄の日付教東市中祝賀の状況と  
元を別の愛里女学生の行進盛んせ、先のが  
新有伊勢舟之用の量、習と婚、三十五回  
拂込の金也、酒飲して何の祝賀と糖  
漬うしてあつたの三四家、贈、おと新集と  
漬む今夜祝賀の人生、前、望上場、二を指  
ニ、神民衆の祝賀、神合、新あつた

二十九日

棟原製

昨余の投箱とぬめ、新法あつた、一、橋州、電流  
料、八百余納入、出、部、も、任、り、の、預、金、一、万  
田、証、書、擔、保、差、入、八、万、圓、借、入、井、上、辰、九、千  
の、病、と、訪、ふ、村、山、も、余、の、名、安、と、り、一、圓、五、角  
物件、先、方、買、入、味、混、を、載、し、来、る、金、三、圓  
先、の、預、金、二、入、り、出、物、差、上、代、の、内、也、有、田、八、角  
外、相、ハ、八、回、嘉、明、拓、相、二、任、七、と、一、金、百、十、八、圓、也  
法、税、内、子、海、村、山、も、一、角、五、分、と、一、角、五、分、也、  
二、回、の、差、一、角、五、分、也、未、雨

三十日

日

雨、文蔵春秋、小品文を言ふ、龜山書、三河田の書版を  
 打ち来り、町高の山々の匣に焚き、二階押入棚の在品  
 を十年振検す、既之の遺忘、居るもの多し、五  
 六の大幅あり、美濃湖の書刻、太上威應経の版  
 本あり、坂口五峯の詩稿十数、とある、和紙家  
 の古款一函、紀念言ふ、數十枚、等保公を  
 言ふものあり、少くも、内若干を獲り、階下の  
 納戸に入る、午後お出、松木沿う、来出

榎原製

三十一日

晴、数十函の来向を檢し、不用のものを取り分  
 け、焚料に供す、村山秋浦亭の書、遠く、賣印の  
 状況を報す、杜微の激湍、風舟の大幅を、追加と  
 し、打ち去る、高橋鏡二と、秋刀魚と、書合せ、と  
 つき、海色、刈り、五月力三と、山陽、方幅の、終定  
 を、清い、午後、及、故、整理、の時、と、福、す、夜、来  
 徹

十一月

一日

晴大上より校新善治の着主、松平合代も年回分の配当来る。名古屋の事も相見をせしめたる。及故郷に就中若干の名家草子編を得、葉よみ忍びす、冊子も殆くして書架に入す。散策は名の三福の酒名しとゆゑ、夜未徹雨。

二日

晴大上川つゝき来た。志も形と程も遠あり。

榎原製

張紙をうすく、字核に描く(全)大隈亮房を徳山の文を筆心す。又新報と筆を村上泰山録大中一の遺子茂彦の卦列と干後多福を云報に寄す。加賀守三印を洗す。書法書を貯す。加賀守の志書と叔母の大冊子(巻合)の押書(元)に、大隈亮房年記念文と巻を代りに念を代へ、支那古書(四庫全書)十日巻を貯す。余り授福と叔母の雑記古列、柳橋の宛族と叔母の秋の鳥も送す。海鳥の列。

丙

三日

の夜節

加賀の年法に御也と為す村上島山、吊也と為す  
 杉浦の年子も其出難所と著す、午時新  
 宿に散葉、外島の市子にの次節を祝し、杯を  
 ぐ、午時直衝首相の放送、宣言す、以次祝事  
 参拜八十萬人、出征陸海軍、漢口、救世祝賀の  
 式を行ふ、其の祝賀、うじ大を延し、徳り来る。

四日

快晴、朝来、夜節と著す、大工耳、修繕の材

徳京製

料を伴ふ、金万五千四百あり、閉けり、博文、米原  
 田庄、左多りの計、積す、十日一掃、清量、圖書  
 祭と祈ふ、祝状、今夜、ゆ子物を供く、十三  
 夜、月も、ゆふ

五日

晴、朝来、雑録、三巻、下、本、四、圖、出、終、に、終、に、四、氏  
 物、神、作、真、姿、神、屋、改、命、に、開、く、の、あ、る、あ、る、十  
 一、日、と、三、日、の、間、に、色、紙、三、枚、増、毫、名、古、屋、形、の  
 の、囃、に、應、す、大、日、本、地、名、辞、典、(上、方、部)、吉、田  
 家、に、配、奉、散、葉、祝、の、出、る、事、に、酒、を、し



東防未思、石河高橋銀二と難の味増淡も  
送る来り、神田吉持、函をとり、高橋銀二  
王曰、あ、石河高橋の、難、難、二尾注文  
玉井力三に、前生、大托有、所持金、化、幣、北の  
金、銀、二、百、回、也、の、届、出、と、う、ち、大、井、母、又、一、上、原、徳  
甫、(河、中、将)、列、第、の、時、与、對、策、の、印、創、物、創、来  
入、河、達、去、死、也

九日

晴、山、田、殿、御、子、又、一、月、訪、亡、父、の、遺、物、出、取、と、堀、澤  
一、七、三、三、光、を、耐、り、取、来、日、比、公、公、國、の、菊、花

棟原製

を、觀、又、午、後、移、移、と、兼、支、村、山、物、し、仰、し、も  
○、去、書、去、印、代、金、の、内、回、千、回、銀、收、井、上、辰  
九、印、銀、金、と、鶴、池、某、山、湯、也、前、の、銀、金、を、持  
此、来、り

十日

晴、東、防、未、思、の、前、主、難、法、キ、ン、グ、に、投、函、有、橋、銀、二  
と、来、也、金、三、十、回、才、一、回、り、支、店、而、金、預、金、に、入、り  
難、法、ぬ、古、く、も、形、名、知、れ、の、字、よ、二、於、到、来、而、六  
十、回、也、光、の、貯、金、に、入、り、午、時、九、じ、ん、に、銀、七、兩、也

校長星野完城、加州金澤、鳥屋園(十四)  
注文、難病と著り、七時を移、復作、向仲花を  
来、出、望、望、望、去

十一日

噴、朝、来、旋、宿、を、著、す、去、月、未、出、所、を、全、部、と、交  
す、ハ、る、自、本、日、迄、是、扶、存、の、成、り、海、向、の、成、り、  
流、空、海、の、成、り、集、三、海、出、版、の、成、り、  
午後三時、青山、高、塔、に、赴、き、入、海、塔、の、成、り、  
成、り、在、海、塔、の、成、り、海、塔、の、成、り、

東京製

十二日

噴、相、来、旋、宿、を、著、す、復、又、も、う、一、交、を、控、し、  
新、宿、日、三、時、の、成、り、海、塔、の、成、り、  
を、し、完、了、す、午後、又、難、病、を、著、す、  
成、り、去、月、<sup>北、極、の、成、り</sup>初、雪、も、り、寒、氣、加、ハ、ル、  
成、り、去、月、<sup>北、極、の、成、り</sup>初、雪、も、り、寒、氣、加、ハ、ル、

十三日

日

噴、村、山、秋、漸、涼、に、踏、之、龜、山、黄、三、島、山、陽、香、暢、の  
別、墅、も、多、く、散、采、給、也、の、味、美、酒、飲、む、其、午  
睡、喜、代、四、典、二、五、の、来、り、校、録、以、集、略、又、成、り

十四日

朝、朝来雜記を尋ねて、教養淡草、日本橋、物と  
賄ひ、高崎、倉公堂、浦、と物、午後、曾、油、方  
詢、と時、方、と考へし

十五日

朝、朝来雜記を尋ねて、教養淡草、日本橋、物と  
賄ひ、高崎、倉公堂、浦、と物、午後、曾、油、方  
詢、と時、方、と考へし

棟原製

十六日

朝、立、至、城、高、野、池、湯、湯、の、所、か、ま、り、村、田、懸、懸、懸、懸、  
山、陽、の、書、の、館、を、た、た、り、と、去、り、午、後、休、休、休、休、  
り、又、村、山、秋、満、耳、を、又、別、別、別、別、の、時、分、に、時、分、  
村、山、と、本、口、を、上、代、金、の、の、八、る、二、四、八、十、五、  
時、分、を、四、四、四、四、と、今、二、四、八、十、五、  
也、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、  
也、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、  
公、後、の、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、  
と、交、付、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、争、

枝斜房材を以て修理し、又地窓  
あり

十七日

町重松長男結婚を祝ひ并に金銭を贈り、  
家老の金貨并に金銀を日本紙のりで封じ、  
ししを並置し、金貨二万、日本紙と交付す。先  
日伴日牛指三瓶の物を贈り、新居州、酒、  
飯、午後家老の内徳川期の子家の文書、福来  
敷を授け、并に整理す。

徳原製

十八日

町重山房より四民百種、銀共才十四巻と寄  
り、また、日向正保山陽の武陽の鑑定と書、  
是五十石克貯金、先ず、箱錦を賣す、金貨  
二百圓、内二枚、銀貨十枚、口も、  
冬、政府より寄る、此等銀五万七千七百二十枚、  
敷来、内、  
此汁、銀、  
夫、品、三十圓、  
文、  
付、  
新、  
紙、  
上、  
書、  
す、

十九日

晴、至四時、雨也。為修、至市、為銀太郎、郵是  
降念寺、佛、至也。至十五日也。板餅、以至、至の内  
ト、人、是日、柳、村、松、楠、の、秋、山、空、轉、と、清、の、あ、い、  
救、東、句、佛、の、句、集、を、得、と、仰、く、の、行、明、或、は、在、死  
去

二十日 次後

別冊に録す



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

東京製



